

平成22年3月期 本決算説明会



平成22年5月17日

ご注意

本資料に含まれる予想に関する記載は、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後、日本及び世界の経済動向、新たな技術開発の進展により変動することがあります。従って、当社としては、その正確性を保証するものではありません。

Contents

- 
1. 22年3月期業績の総括
 2. 22年3月期の概況
 3. 四半期ごとの業績の推移
 4. 計測・計量機器事業 実績-1
 5. 計測・計量機器事業 実績-2
 6. DSP事業の業績
 7. 医療・健康機器事業 実績-1
 8. 医療・健康機器事業 実績-2
 9. 財務分析(貸借対照表)①
 10. 財務分析(貸借対照表)②
 11. 財務分析(キャッシュフロー)
 12. 設備投資・減価償却費の推移
 13. 23年3月期通期見通し
 14. 計測・計量機器事業 見通し-1
 15. 計測・計量機器事業 見通し-2
 16. 医療・健康機器事業 見通し-1
 17. 医療・健康機器事業 見通し-2
 18. DSP事業開発コンセプト①
 19. DSP事業開発コンセプト②
 20. 次世代電池の開発をサポート①
 21. 次世代電池の開発をサポート②
 22. 医療ICT向け機器の展開について
 23. 補足資料

22年3月期業績の総括

ハイライト

家庭用血圧計の主力マーケットであるロシアで、為替の影響と在庫調整（ルーブル下落に伴う製品値上げが原因）により売上減（下期は回復基調）

通期の売上減少（前期比約11%減少）に伴う粗利益額減少の影響が大きく、販売管理費の削減に努めた（前期比約13%減少）ものの、収益悪化（営業赤字）

DSP事業は最悪期を脱して、休止していた案件や新規案件が立ち上がってきた

22年3月期の概況

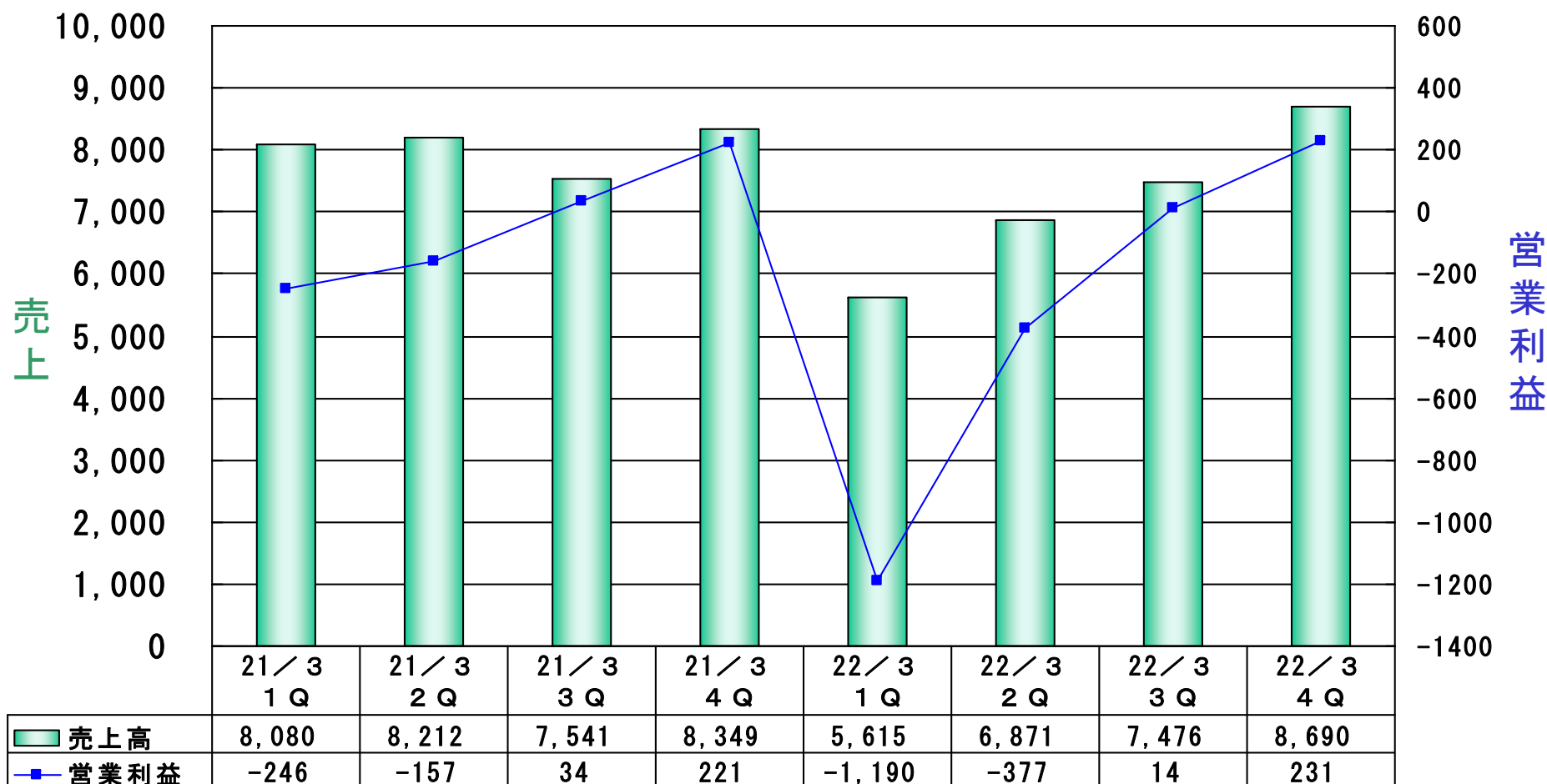


連結損益	21/3期 (実績)			22/3期 (実績)	前期比	22/3期 予想	予想比	(単位：百万円) コメント
		上期	下期					
売上高	32,182	12,486	16,166	28,651	-11.0%	28,770	-0.4%	血圧計ロシアでの落ち込み大 (為替、在庫調整等)
売上原価	16,781	7,227	9,218	16,445	-2.0%	16,510	-0.4%	売上減に伴う稼働率低下・ 為替等により利益率低下
販売費及び 一般管理費	15,548	6,826	6,702	13,528	-13.0%	13,600	-0.5%	販売管理費の抑制に努め た
営業利益	-148	-1,567	245	-1,322	- %	-1,340	- %	
経常利益	-1,768	-1,469	113	-1,356	- %	-1,430	- %	前期為替差損▲896百万円
税引き前 利益	-1,786	-1,504	102	-1,403	- %	-1,470	- %	
当期純利益	-2,264	-2,192	-45	-2,238	- %	-2,300	- %	繰延税金資産取崩し ▲601百万円
1株当たり 利益(円)	-107.06	-109.00	-2.25	-111.25	- %	-114.34	- %	

(注) 22年3月期予想は、11月6日付の「業績予想の修正に関するお知らせ」にて発表した予想
であります(以下同じ)。

四半期ごとの業績の推移

単位(百万円)



22年3月期は1Qに大幅な売上落ち込みがあったが、景気回復に伴い下期は回復基調に入った(売上3Qは前期並み、4Qは前期比約4%増)

計測・計量機器事業 実績－1

(単位：百万円)

セグメント		21/3期 (実績)	上期	下期	22/3期 (実績)	前期比	22/3期 予想	予想比
計測・計量 機器事業	売上高	16,198	6,711	8,884	15,595	-3.7%	15,230	2.4%
	売上原価	9,955	4,124	5,480	9,605	-3.5%	9,360	2.6%
	販管費	7,992	3,754	3,633	7,387	-7.6%	7,430	-0.6%
	営業利益	-1,749	-1,167	-230	-1,396	- %	-1,560	- %

1. 計測機器・計量機器を中心に下期は業績が回復
⇒売上は下期で前期比10.6%増（通期は前期比3.7%減少）
2. 開発費等の販管費の抑制（前期比7.6%減）に努めた
⇒営業赤字は縮小（▲1,396百万円）

計測・計量機器事業 実績－2



(単位：百万円)

製 品 種 別	21/3期 (実績)			22/3期 (実績)	前期比	22/3期 予想	予想比
		上期	下期				
計 測 機 器	2,649	1,552	1,989	3,541	33.7%	3,458	2.4%
計 量 機 器	9,675	4,091	4,826	8,917	-7.8%	8,665	2.9%
計測・制御・シミュレ ーションシステム(新規)	3,527	1,036	1,630	2,666	-24.4%	2,652	0.5%
電 子 ビ ー ム 関 連 ユ ニ ッ ト	347	32	439	471	35.7%	455	3.5%
売 上 合 計	16,198	6,711	8,884	15,595	-3.7%	15,230	2.4%

計測機器

：主力の試験機は4Qは前期比増に転じたものの、それまでの落ち込みが大きかった。前期に買収したサム電子機械、ベスト測器が寄与。

計量機器

：上期低迷したが、下期は秤・天秤を中心に復調してきており、前期実績を超える水準まで売上回復

DSP

：前期好調だった米国は今期も健闘したものの、国内は前期の設備投資凍結の影響を受けて低迷、全体でも前期を下回る実績

電子ビーム関連ユニット

：半導体市況は依然厳しい状態が継続している

DSP事業の業績

(単位：百万円)

	用 途 種 別	20/3期 (実績)		21/3期 (実績)		22/3期 (実績)	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期
新規事業	自動車関連	1,289	1,254	1,465	1,722	880	1,396
	試験機関連	78	60	51	41	29	59
	その他	157	68	86	162	127	176
	小計	1,524	1,381	1,602	1,925	1,036	1,630
既存事業への DSP技術応用	特殊試験機関連	108	82	39	126	8	135
	計量制御関連	100	42	63	95	48	82
	医療機器						
	小計	209	125	102	221	56	217
合 計		1,732	1,506	1,704	2,146	1,092	1,847
売上合計 (通期)		3,238		3,850		2,940	

国内は、設備投資凍結の影響を受けて厳しい結果となった。しかし、後半にはORIONの大量受注、過渡ベンチといった大型案件の受注等、自動車開発関連の投資も本格的に動き出してきた模様。北米は、バッテリー試験設備やCAS等の大型案件こなし堅調、景気回復に伴い案件も多く今後に期待出来る状況。

医療・健康機器事業 実績－１

(単位：百万円)

セグメント		21/3期 (実績)	上期	下期	22/3期 (実績)	前期比	22/3期 予想	予想比
医療・健康 機器事業	売上高	15,984	5,774	7,282	13,056	-18.3%	13,540	-3.6%
	売上原価	6,827	3,102	3,738	6,841	0.2%	7,150	-4.3%
	販管費	6,353	2,470	2,492	4,961	-21.9%	4,953	0.2%
	営業利益	2,805	202	1,052	1,255	-55.3%	1,437	-12.7%

1. 家庭用血圧計は、主力市場であるロシアにおいて、ルーブル安とそれに伴い前々期末に実施した製品値上げに対する駆け込み受注の反動があらわれた事、及び経済の低迷で影響で苦戦。ただし、下期に入って台数ベースでは回復してきた

⇒通期では売上高は前期比18.3%の減少

2. 家庭用血圧計において、売上減に伴う稼働率の低下・為替等の影響により原価率が悪化

⇒ロシア現地法人（ADR）を始め販売管理費の削減に努めたものの、営業利益は前期比55.3%減少

医療・健康機器事業 実績－2

(単位：百万円)

製 品 種 別	21/3期 (実績)			22/3期 (実績)	前期比	22/3期 予想	予想比
		上期	下期				
医 療 機 器	2,334	1,114	1,123	2,237	-4.2%	2,270	-1.5%
健 康 機 器	13,650	4,660	6,159	10,819	-20.7%	11,270	-4.0%
売 上 合 計	15,984	5,774	7,282	13,056	-18.3%	13,540	-3.6%

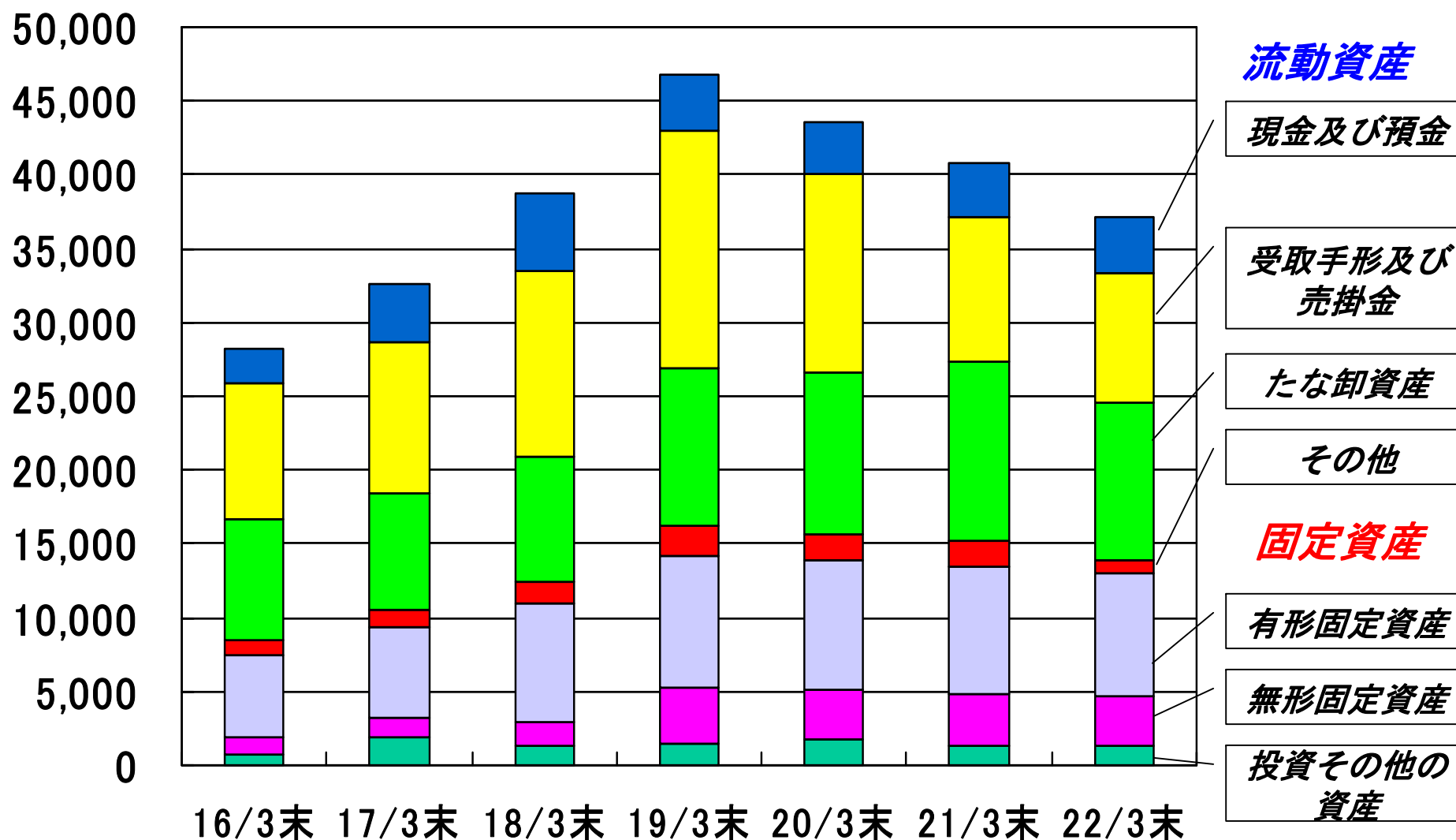
医療機器：メディカル計量器を中心に国内市場では健闘したが、海外向け製品が振るわず
(携帯型血圧計、ベットサイドモニター等)

健康機器：主要マーケットであるロシア・北米を中心に市況が好転、4Qには前期実績
ベースまで回復

財務分析（貸借対照表）

■ 貸借対照表分析 資産の部

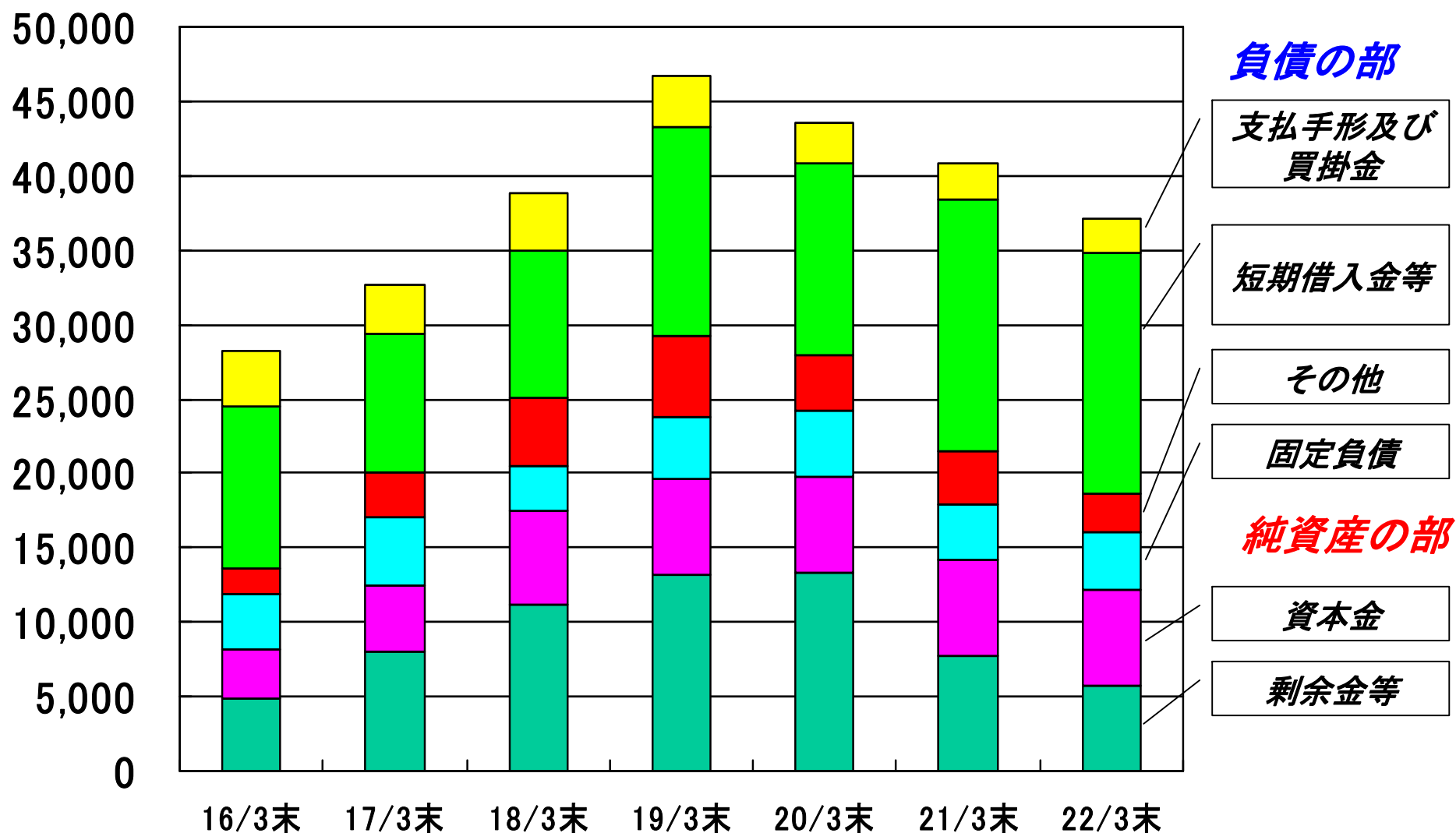
（単位：百万円）



財務分析（貸借対照表）

■ 貸借対照表分析 負債・純資産の部

（単位：百万円）



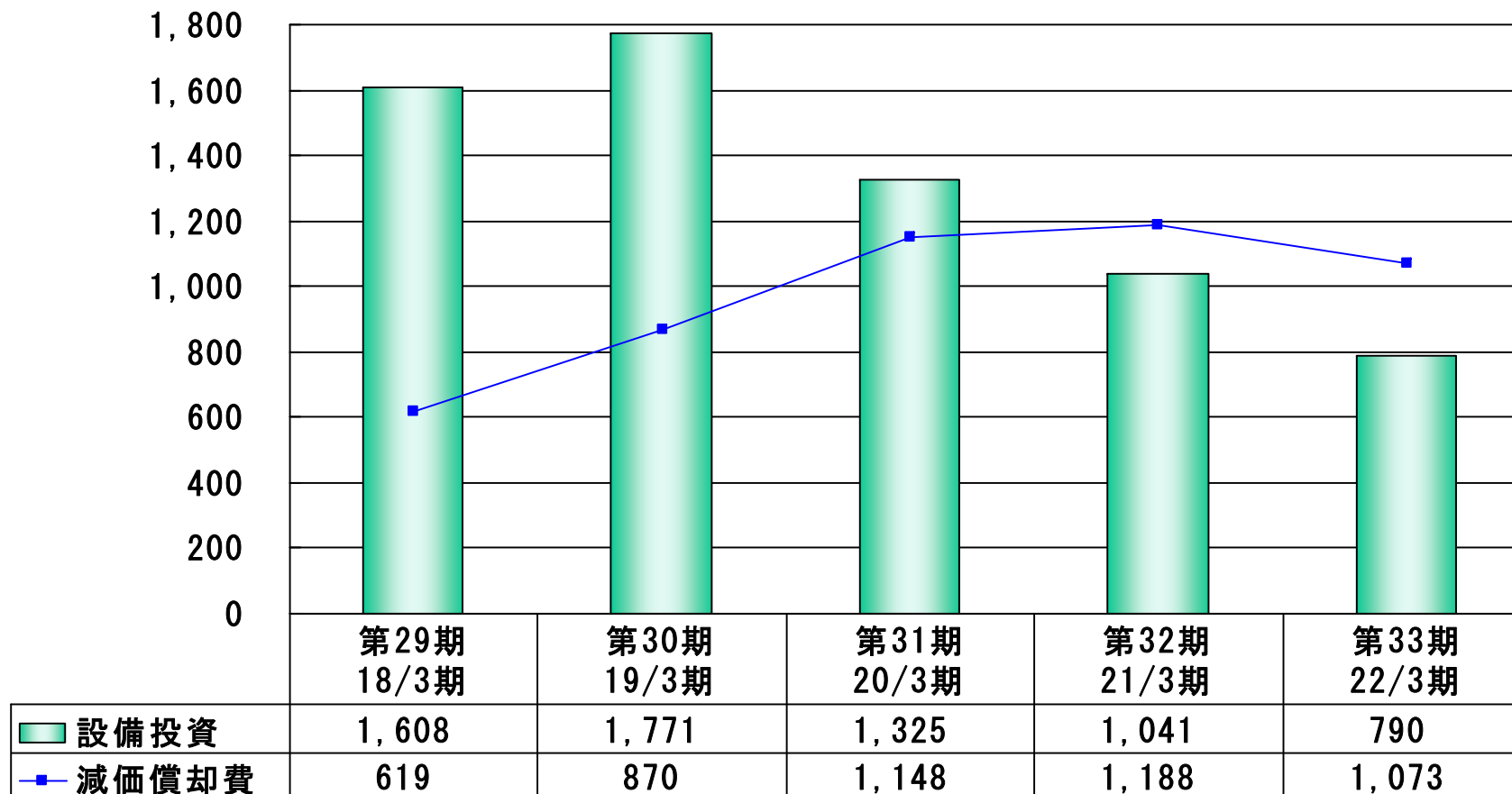
財務分析（キャッシュフロー）

■ キャッシュフロー分析

連 結 キ ャ ャ シ ュ フ ロ ー	21/3期 (実績)	22/3期 (実績)	コ メ ン ト
営 業 活 動 に よ る C F	2,217	2,108	売上債権の減少+1,299、たな卸資産の減少+1,641、減価償却費+1,558、税引前損失▲1,402、法人税支払▲341
投 資 活 動 に よ る C F	△3,566	△1,235	有形固定資産の取得▲731 無形固定資産の取得▲420
財 務 活 動 に よ る C F	1,560	△942	短期借入金の返済▲71 長期借入金の返済▲868
現金及び現金同等物の増加額	△142	△52	
現金及び現金同等物の期末 残 高	2,899	2,847	

設備投資・減価償却費の推移

(単位：百万円)



引き続き、設備投資の抑制に努めた

23年3月期通期見通し

(単位：百万円)

連結損益	22/3期 (実績)	23/3期 (予想)		前期比
		上期	下期	
売上高	28,651	15,300	18,100	33,400 16.6%
売上原価	16,445	8,250	9,860	18,110 10.1%
販売費及び一般管理費	13,528	6,750	6,940	13,690 1.2%
営業利益	-1,322	300	1,300	1,600 - %
経常利益	-1,356	80	1,080	1,160 - %
税引き前 税利	-1,403	60	1,070	1,130 - %
当期純利益	-2,238	450	980	1,430 - %
1株当たり利益(円)	-111.25			71.08 - %

計測・計量機器事業 見通しー1



(単位：百万円)

セグメント		22/3期 (実績)			23/3期 (予想)	前 期 比
			上期	下期		
計測・計量機器事業	売上高	15,595	8,550	9,790	18,340	17.6%
	売上原価	9,605	5,040	5,720	10,760	12.0%
	販管費	7,387	3,670	3,780	7,450	0.9%
	営業利益	-1,396	-160	290	130	- %

1. 売上

本格的に回復してきた計量機器、及び前期から具体的案件が動き出したDSP事業を中心に、前期比17.6%の売上増加を見込む

2. 売上原価・販管費

売上増加による粗利益率の上昇と販売管理費の抑制継続（前期並み）により、通期での営業黒字化を目指す

計測・計量機器事業 見通し－2



(単位：百万円)

製 品 種 別	22/3期 (実績)			23/3期 (予想)	前 期 比
		上 期 予 想	下 期 予 想		
計 測 機 器	3,541	1,560	1,790	3,350	-5.4%
計 量 機 器	8,917	5,150	5,050	10,200	14.4%
計測・制御・シミュレーションシステム(DSP)	2,666	1,700	2,700	4,400	65.0%
電子ビーム関連ユニット	471	140	250	390	-17.2%
売 上 合 計	15,595	8,550	9,790	18,340	17.6%

計測機器

：サム電子機械・ベスト測器と連携強化、電池の材料試験の分野において物性試験機等の拡販を図る

計量機器

：・ピペットのリークテスト・容量テストを投入して、研究室等の分析市場を攻略する

・AD-7011の応用で新市場の獲得、及びAD-7011のコスト削減を目指す

DSP

：開発コンセプトMBSimの更なる浸透、タイヤラベリング制度導入によりタイヤ業界への拡販、アライアンスによるバッテリー充放電器の開発

電子ビーム関連ユニット：市況環境は厳しいが、電子ビーム等を利用した応用市場の開拓を進める

医療・健康機器事業 見通しー1

(単位：百万円)

セグメント		22/3期 (実績)			23/3期 (予想)	前期比
			上期	下期		
医療・健康機器事業	売上高	13,056	6,750	8,310	15,060	15.3%
	売上原価	6,841	3,210	4,140	7,350	7.4%
	販管費	4,961	2,480	2,550	5,030	1.4%
	営業利益	1,255	1,060	1,620	2,680	113.5%

1. 売上

ロシアにおける家庭用血圧計の復調を主因として、売上は前期比15.3%増を見込む

2. 営業利益

家庭用血圧計の売上回復による稼働率向上により、粗利益率が向上

⇒営業利益は前期比113.5%増を見込む

医療・健康機器事業 見通しー2

(単位：百万円)

製 品 種 別	22/3期 (実績)			23/3期 (予想)	前 期 比
		上 期 予 想	下 期 予 想		
医 療 機 器	2,237	1,140	1,330	2,470	10.4%
健 康 機 器	10,819	5,610	6,980	12,590	16.4%
売 上 合 計	13,056	6,750	8,310	15,060	15.3%

医療機器：・開発スピードを上げて積極的に新製品投入を図る

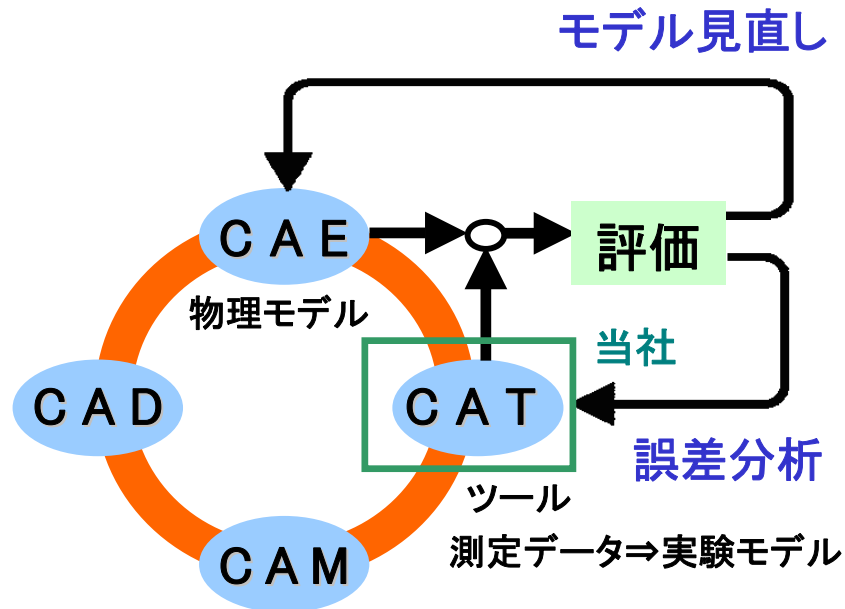
・栄養サポートチーム加算等、市場ニーズを的確に捉えて営業を展開する

健康機器：・ロシアにおいては競争優位性の確保、伸びが期待出来るアジアマーケット
(中国、韓国) では市場拡大を促進

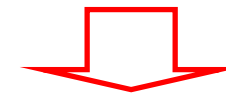
・IT技術活用により、近年欧米を中心に活発となってきた在宅医療および医療
ICT (Information Communication Technology: 情報通信技術) 向け機器分
野での売上伸張を図る

トピックス 1～DSP事業開発コンセプト①

当社が考える自動車開発コンセプト MBSim (Model based simulation)
CIM (Computer integrated manufacturing)



物理モデル(設計段階で使用)
使用パラメータが多くて使いにくかった

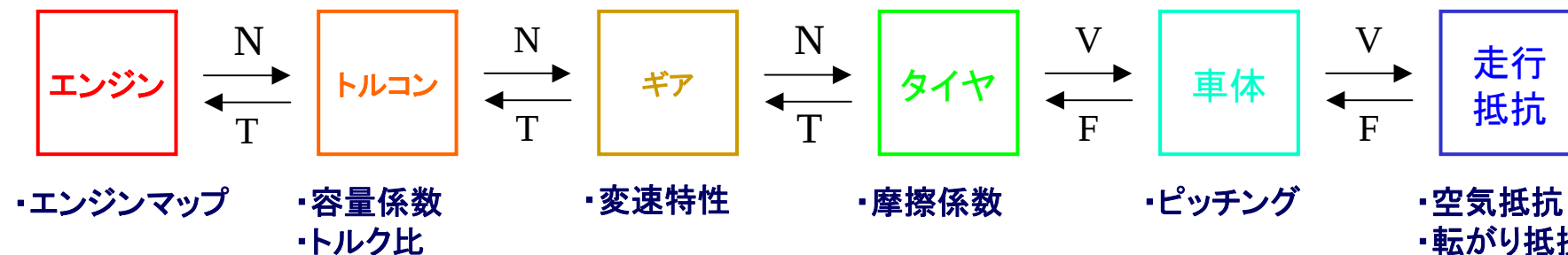


実験結果から実験モデルを作成して、CAEモデルと同定することにより、モデル精度の向上、使いやすさを提案

精度1/1000以上の実車走行計測によって始めて可能

実験モデル⇒エネルギー保存則を基にした4端子モデル

T:トルク N:回転力 F:力 V:速度



トピックス2～DSP事業開発コンセプト②

MBSim (Model Based Simulation)を実現するCAT支援ツール

- ①モデル同定を行なって高精度なモデルを作成・検証する事が可能
- ②試作段階において、実走行環境でテストを行なう事が可能

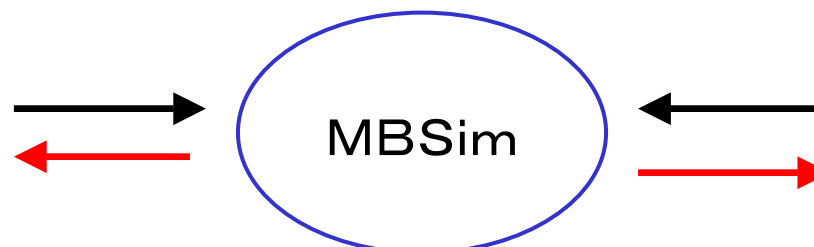
VMS
(Vehicle Measurement System)



補足1

補足2

RR-CD
(Real road-Chassis dynamo)



テスト・ベンチ
(Test Bench)



各種部品試験装置



→ モデル同定／検証
← 実車走行再現

トピックス 3～次世代電池の開発をサポート①

DSP技術を利用した電池評価システム

バッテリー充放電試験

バッテリーの安全性・耐久性
等を評価・試験

製品事例

充放電器

バッテリーの特性を試験
するために、充電と放
電を電池に繰り返し
行わせる装置

バッテリーHILS

バッテリーECUの機能を試験

バッテリー
ECU

バッテリーの制御を行うECU



これらの機能をモデル化



RESS(rechargeable
energy storage system)

バッテリー・キャパシ
タ等の充電装置



Inverter

電力を交流⇄直流
に変換



Motor
Generator

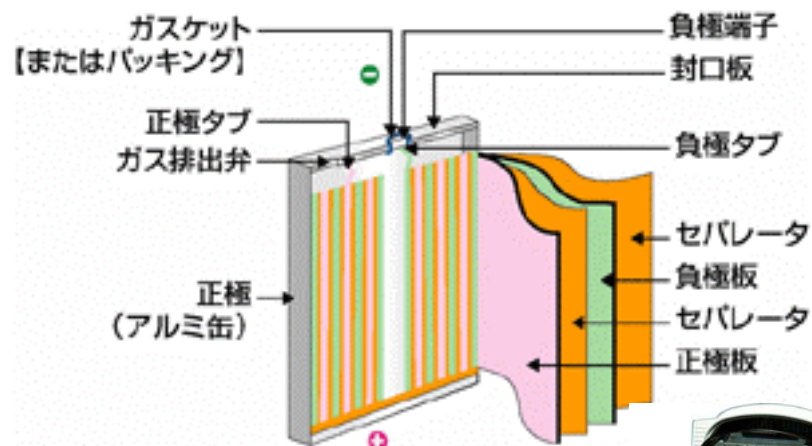
電動機(電気により動
力を発生)及び発電
機(動力により電力を
発生)

トピックス 4 ～次世代電池の開発をサポート②



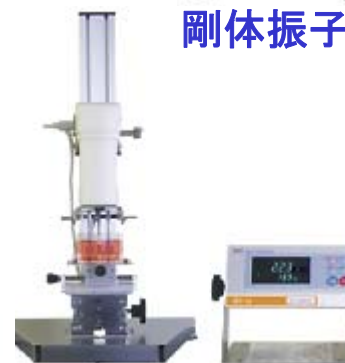
電池の材料評価試験に強いA&D

リチウム電池等に使われる材料の評価試験に、当社計量・計測機器が活躍しています



剛体振子式物性試験器

電極材料を乾燥させて集電材上に膜を作って電極を作る際の、電極材料の乾燥・硬化条件の決定、及び物性評価



音叉式物性試験機

電解液(正極・負極の電極の間に充填され、イオン化して電極が放した電子をもう一方の電極に運ぶ)の濡れ性、浸透性を計測



加熱式天秤

電極材料の乾燥最適時間の評価、及び集電材上での電極材料の乾燥・硬化条件の決定に使用



生産ラインにおいて、電解液を高速・高精度で充填

ライン・組込み用天秤

トピックス5～医療ICT向け機器の展開について

高齡化社会における予防医療と医療業務の効率化に向けて

2009年に、世界で初めてContinua規格(注)の認証を取得したBluetooth通信機能付き家庭向け
血圧計、体重計を開発

医療機関向け、家庭向け機器の双方を手がけているメーカーとしての強みを生かしながら、医療健康情報のICT化に対応した通信機能付き機器の拡充を行っていく

(注) Continua

intel社を始めとした全世界の大手家電、通信、医療、製薬、保健など、さまざまな分野から200社以上が参加している健康機器の通信規格を標準化する非営利団体



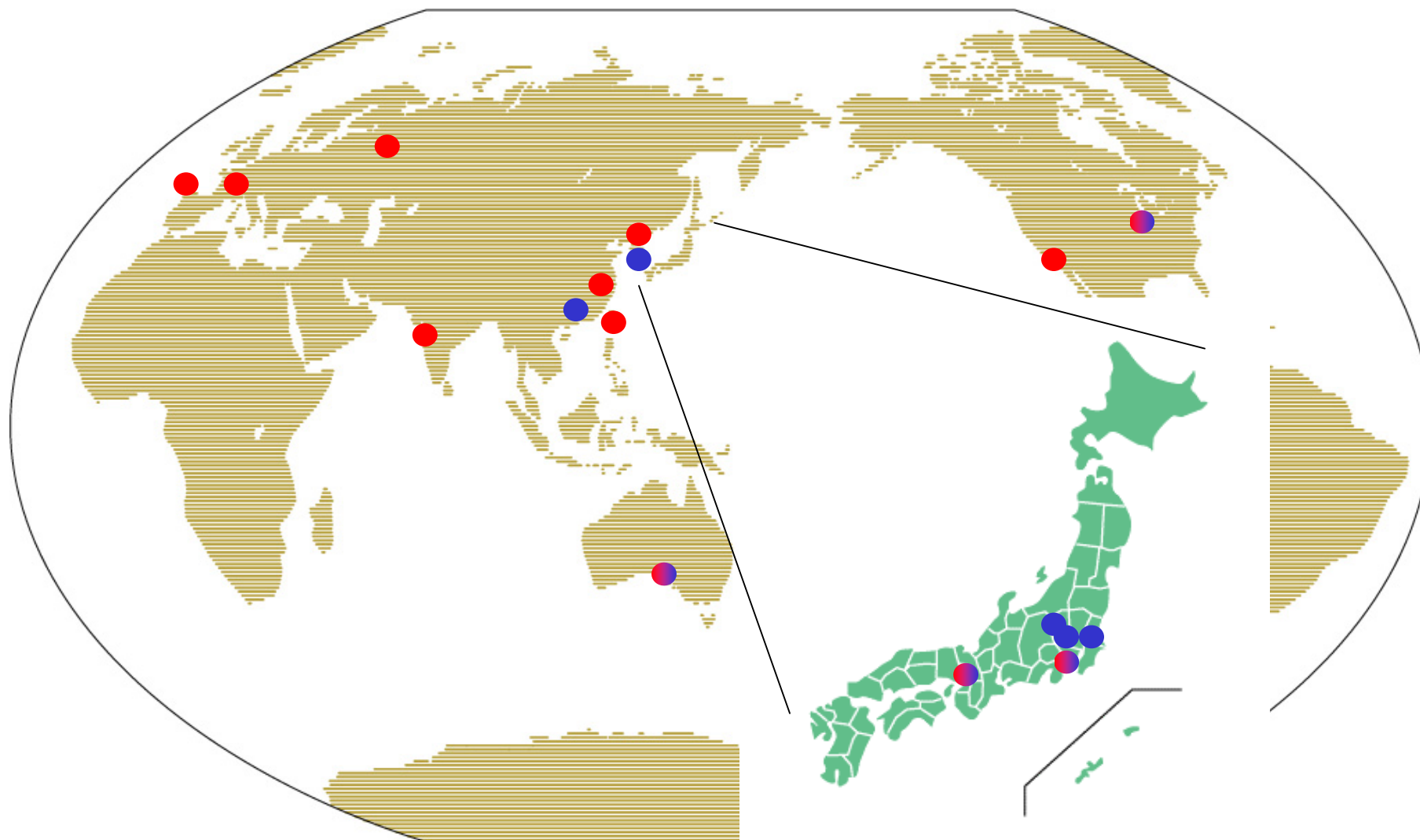


補足資料



- 1 グループの概要
- 2 製品紹介（計測機器）
- 3 製品紹介（計量機器）
- 4 製品紹介（医療・健康機器）
- 5 DSPシステムとは
- 6 DSPシステムの採用事例－1
- 7 DSPシステムの採用事例－2
- 8 電子ビーム関連ユニット
- 9 開発の状況

グループの概要



A & Dは開発および販売を中心に活動
生産主体は国内外関係会社
海外販売は関係会社経由と直販を併用

- 生産・開発関係会社
- 販売関係会社

製品紹介 (計測機器)

種 別	概 要	主 要 製 品
波 形 解 析	音・振動等時間的に変化する物理信号を収集および解析	波形解析システム、FFTアナライザ、データロガー
非破壊検査機器	超音波を利用して溶接欠陥や亀裂・腐食等を調査	超音波探傷器、超音波厚さ計
材 料 試 験 機	材料・部品の引っ張り圧縮強度や粘弾性・粘度を測定	引張圧縮試験機、動的粘弾性測定機、粘度計、摩擦摩耗試験機
電 子 計 測 器	プロからホビーや家庭まで、多種多様に取り揃えたデジタル電子計測機器	オシロスコープ、デジタルマルチメータ、タイマー、温湿度計、直流電源、壁内センサーetc.
油 圧 試 験 装 置	油圧サーボ機構を応用した各種試験装置	油圧式疲労試験機、油圧式振動試験機、油圧加振機等
環 境 計 測 機 器	各種排気ガス濃度測定器を始めとする環境計測機器	エンジン排ガス計測機器、燃料電池関連計測機器、各種ガス分析計等



波形解析システム

引張圧縮試験機



防水ペン型温度計



オシロスコープ



超音波探傷器

製品紹介（計量機器）

種 別	概 要	用 途 等
電子天びん	軽量の物体の質量を高精度に計量する機器で、最大0.01mgまでの計量が可能	医薬品や精密材料等を対象に、研究開発向けから生産・検査まで幅広く使用
電子台秤	中・重量の物体の重量を計量する機器で、防水、防塵、防爆等、様々な環境に対応	厳しい環境下で使用される産業用から家庭で使用されるものまで、幅広い製品群をラインナップ
インジケータ	計量センサから得た信号を質量や力としてデジタル表示、及び制御を行う	粉・粒状物体の自動計量システム、台秤、トラックの積載量を計量するトラックスケール等に使用
ロードセル	金属製の起歪体に加わった荷重による歪みを検出して、電気抵抗値に変換するセンサ	台秤、トラックスケール、フックに吊り下げて計量するクレーンスケール、その他特殊用途に使用



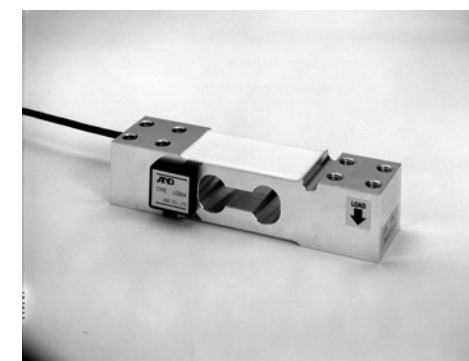
電子天びん



電子台秤



インジケータ



ロードセル

製品紹介 (医療・健康機器)

種 別	概 要	主 要 製 品		特 徴 等
病 院 用 デジタル血圧計	医療機関 や高齢者 介護施設 向血圧計	携帯型自動血圧計		24時間の日常生活での血圧変動を測定
		血 圧 監 視 装 置		SpO2(動脈血酸素飽和度)と血圧を同時監視
		バイタルセンサ		血圧・体温・SpO2・ECG等バイタルサイン測定
		全自動血圧計		腕を入れるだけでワンタッチ操作の自動測定
メ デ ィ カ ル 計 量 器	医療機関 や高齢者 介護施設 向計量器	身長体重計		身長・体重をデジタル測定、肥満度等也表示
		ベッドスケール		治療時の体重変化を測定、監視、記録
		バリアフリー スケール		フラットな計量台、車イス乗車のままや、手すりにつかまった状態で安全に計測
健 康 機 器	在宅での 健康管理 用機器	デジタル 血 圧 計	上腕式	血圧測定に不規則脈波検知、音声等も付加
			手首式	小型・軽量サイズで外出先でも手軽に血圧測定
		超音波吸入器		温熱、加湿効果でノド、鼻の不快感を緩和
		体 重 計		50 g 単位、肥満・痩せの基準BMI也表示



携帯型
自動血圧計



血圧監視装置



全自動血圧計

手首式家庭向
デジタル血圧計



家庭向体重計



上腕式家庭向
デジタル血圧計

DSPシステムとは

DSPシステム

■ DSPシステムの特徴

◇自動車等の複雑な製品の開発・生産現場において、開発期間の短縮・ローコスト化を実現する画期的なシステムです

つないでテストする



エンジンの試作品



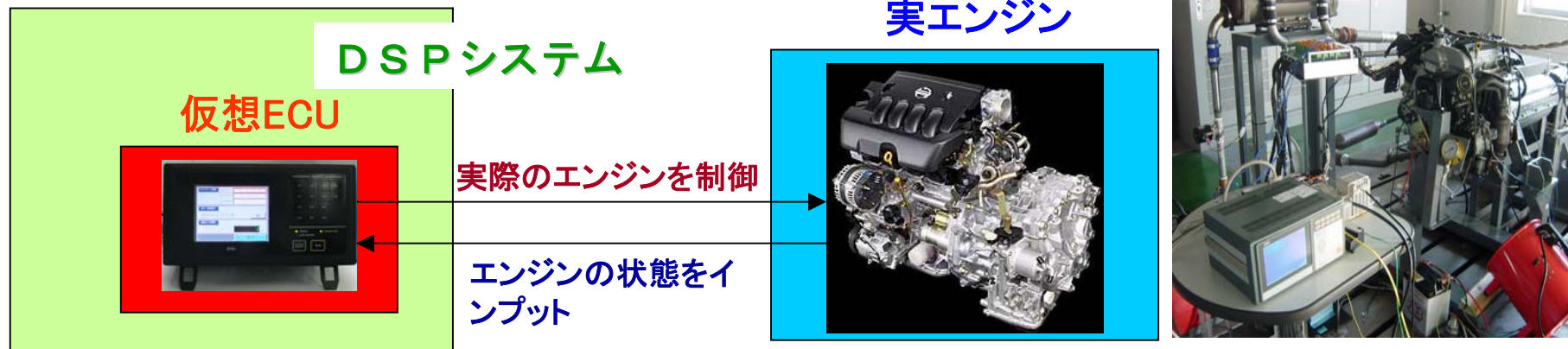
エンジン以外の車両部分をコンピュータにモデル化

エンジン以外の部分が完成していなくても、エンジンを実際の車両に搭載した場合を想定したテストを行う事が可能

DSPシステムの採用事例－1

RPT (Rapid Proto Type)

コンピュータ上にECUの試作モデルを作成して、実際のエンジンを制御してテストを行う



HILS (Hardware In the Loop Simulation)

コンピュータ上に仮想のエンジンや車両のモデルを作成して、試作品のECUのテストを行う



DSPシステムの採用事例-2

ORION

適合支援自動計測
ソフトウェア

1. 適合とは

ECU開発プロセスで、ECUがエンジンや変速機などの制御を最適に行うためにECUの設定作業（チューニング）を行うこと。

2. ORIONの特徴

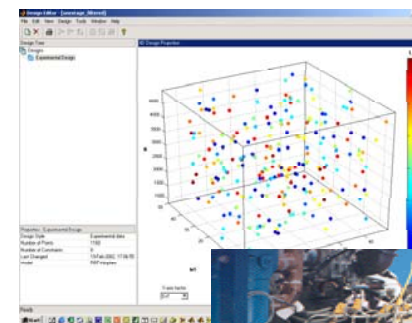
・フレキシビリティ

カスタマイズが容易で、ユーザーが計測アルゴリズムの作成等、各自の仕様に合わせて設定を変更出来る

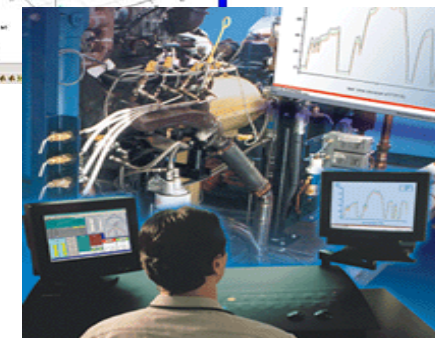
・オープン性

他のシステムとの接続が可能であり、今まで使用していた資産の有効活用が可能

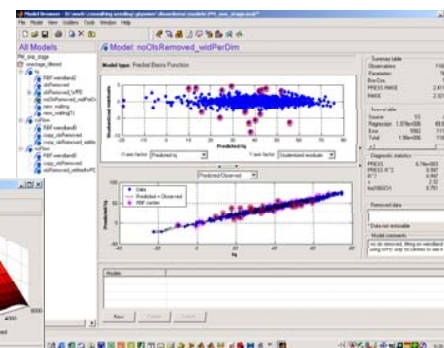
実験計画



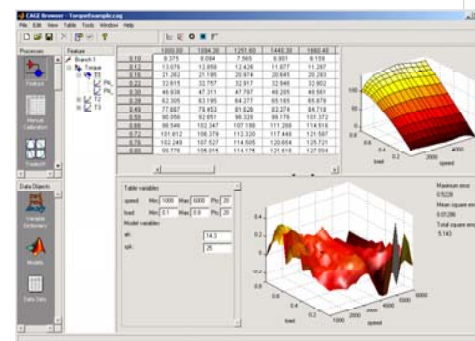
評価試験



ECUのモデル化



適合



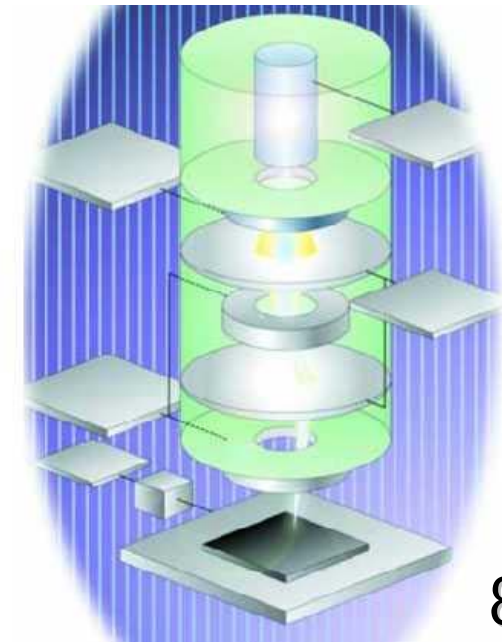
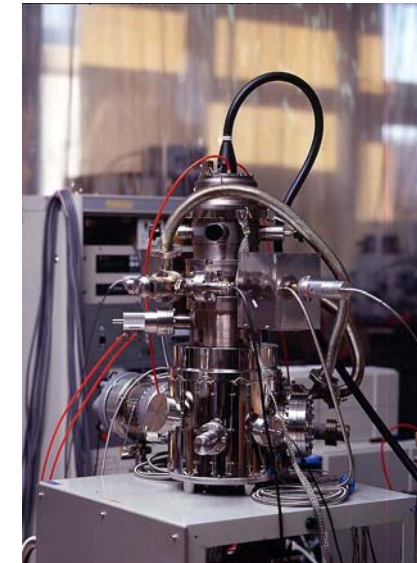
電子ビーム関連ユニット

電子ビーム関連ユニット

微細な半導体の回路を描画するための手段として、主にマスク製造（半導体のネガの様なもの）に電子ビームが利用されていますが、当社は電子ビーム露光装置に組み込む基幹ユニットを半導体露光装置メーカーに提供しています

当社が提供する主要なユニット

- ビーム偏向回路
電子ビームの照射方向を制御するもので、精度・速度ともに世界最高水準です
- 電子銃
電子ビームを発生させる設備で、世界でもトップクラスの出力と安定稼働率を備えています



開発の状況

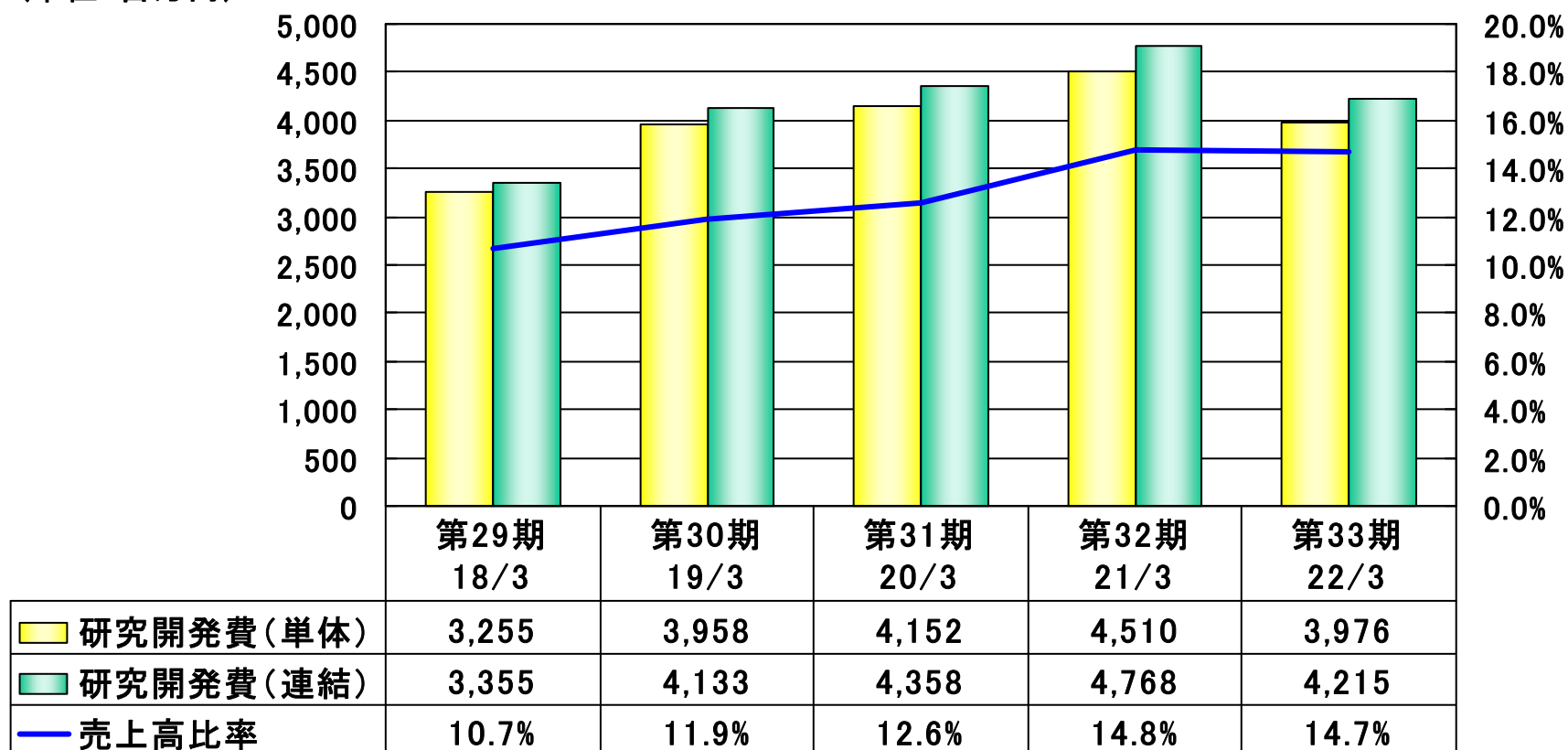


社内資源の多くを開発に投入し、
各事業分野で継続して開発を実施。

(平成22年3月末/A & D単体)

既存事業 172名 (52.6%) 開発人員比率
新規事業 155名 (47.4%) (単体) は49.2%
合 計 327名 比率

研究開発費
(単位: 百万円)



※売上高比率は連結売上で算出